

I. 価値創出・課題解決プロジェクト

※事業名右側の番号は、
中期計画「挑戦都市 やってみなはれ! 大阪プラン」の事業番号に対応
※2024年度からの新たな取り組みは下線で記載
※各事業を所管する部会・委員会名を記載

凡例：
① 中期計画
事業番号

〇〇〇〇 委員会名
〇〇〇〇 部会名

1. ものづくり×イノベーションプロジェクト

※評価指標の数値は2023年12月末時点

次世代テックフォーラムの運営 ①

事業概要

情報・通信

デジタル変革

- ① 先端技術のビジネス活用に関心を持つ企業が集うフォーラムを設置し、技術分野ごとの分科会(クラスター)で情報提供やマッチングを行い、ビジネス化を支援する。

2023年度実績

- ① 7月にフォーラムを立ち上げ、「AI」「モビリティ」「新エネルギー」の3つの分科会(クラスター)を設置。全体で5回の例会と2回の特別見学会を開催し、最新技術の動向や活用事例について情報提供した。3月に分科会横断全体会議を開催。

評価指標

- ① 分科会(クラスター)参加企業：81社

気付き・課題

- ① 参加企業からマッチングの要望があった。また、イノベーション創出に向けて、領域を横断するテーマ設定も重要。



キックオフシンポジウム

2024年度計画

- ① 既存の「AI」「モビリティ」「新エネルギー」の分科会(クラスター)では、最新技術情報の提供だけでなく、最新技術を活用した製品・サービス開発に関するマッチング、実証実験等の支援を実施する。また、新たに「宇宙」「新素材」の分科会を増設し、既存分科会を含めた全5クラスター分野を融合させた横断的なソリューションやイノベーションを創出していく。

2025年度目標

- ① 各分科会で、参加企業等の新製品・サービス、ビジネス開発を支援し、事業化をめざす。

メタバースビジネス創出プラットフォームの運営 ②

事業概要

情報・通信

デジタル変革

- ① 様々な規模・業種の企業による、メタバースを活用した新製品・サービス開発を支援するため、最新情報の提供や先進事例の発表、関心企業のマッチングを行う。

2023年度実績

- ① 7月にプラットフォームを設置。11月に例会を開催し、メタバースビジネスの先進事例紹介や展示に加え、協業に向けた関心企業のマッチングを行った。3月には近畿経済産業局と連携し、XR関連企業28社のビジネスマッチングを目的とした体験型イベントを開催。



フォーラムでのXRサービス体験

評価指標

- ① 参加企業：43社、マッチング：7件

気付き・課題

- ① ビジネス創出のためには、実際のメタバース空間内におけるプロダクト等の実証が必要。

2024年度計画

- ① 新たにメタバース空間内に実証フィールドを設け、サービスやコンテンツ等の作成販売を目指す企業を支援する。また引き続き最新の技術情報、ハード・ソフト両面でのユースケースの紹介を行う。

2025年度目標

- ① 具体的なビジネス化、およびその社会実装を支援。万博を意識したコンテンツの実証、実装イベントの実施。

1. ものづくり×イノベーションプロジェクト

※評価指標の数値は2023年12月末時点

SDGs/ESGプラットフォームの運営 ③

事業概要

産業・スタートアップ

国際ビジネス

- ① 中小企業等のSDGs/ESG対応を支援するため、セミナーやコンサルティング、脱炭素技術に関する企業等とのマッチング、展示商談会等を実施(2021年度より)。
- ② 海外企業とのマッチング等を行い、海外販路開拓を支援する。(2022年度より)。

2023年度実績

- ① 10月に名古屋商工会議所と連携し「グリーンテックマッチング会」を開催したほか、展示商談会「カーボンニュートラル・チャレンジフェア」「SDGsカフェ」等を実施。3月に大商会員対象に脱炭素アンケート調査を予定。
- ② 英国のマンチェスター大学(4月)やタイ企業(6月)とのマッチング会を実施。

評価指標

- ① 参加企業：1,375社(プラットフォーム登録社)、コンサルティングサービス利用：4社、マッチング：34件
- ② 参加企業：195社、マッチング：20件

気付き・課題

- ① CO2排出量算定の取り組みは中小企業にも着実に拡大。更なる取り組みの支援ニーズ把握が必要。
- ② 海外、特にASEANの販路拡大のニーズが強い。

2024年度計画

- ① 技術ニーズマッチング(名商、東商と連携)、展示商談会、コンサルティングを継続実施する。参加者の声を踏まえて企業ニーズに合致した支援を行う。
- ② ASEAN各国企業に、日本企業のグリーンテックを紹介するセミナーやマッチング会、視察団派遣等を行う。

2025年度目標

- ①・②グリーンテック関連のマッチング機能の拡充。



SDGsカフェで提供したチョコレートでできた食べられるストロー

グローバル・イノベーションフォーラムの運営 ④

事業概要

国際ビジネス

- 国内外の企業連携によるオープンイノベーション創出を目指すグローバルイノベーションフォーラム(GIF)の開催(2019年度より)。
- ① GIFミートアップ：海外スタートアップによるピッチ、国内企業とのマッチング支援等。
 - ② GIFチャレンジ：国内スタートアップの海外展開支援。

2023年度実績

- ① 地域別(欧州・中東、北米・ラテンアメリカ、アセアン)に3回、オンラインによるピッチ・商談会を開催した。
- ② CES(米国)に共同出展をブースを設け、国内スタートアップの海外展開支援を行った(1月)。

評価指標

- ① ピッチ・セミナー等参加者数：160人
商談会参加企業：14社
- ② CES出展企業：22社

気付き・課題

- ① 国内スタートアップの海外展開意欲が高まっており、支援ニーズが高い。

2024年度計画

- ① 海外スタートアップ(北米・欧州・ASEAN・大洋州)によるピッチを随時開催。
- ② 従来のCES(米国)に加え、新たにStartup Innovation Thailand Expo(タイ)への出展支援も行い、国内スタートアップの海外展開支援を強化する。

2025年度目標

- ① 万博を機に来阪する海外スタートアップとの連携による国内企業のビジネス創出支援。
- ② 国内スタートアップの海外展開支援事業拡大



CES(米国)への出展支援

1. ものづくり×イノベーションプロジェクト

※評価指標の数値は2023年12月末時点

大商スタートアップリンケージ拡充プログラム 「Daisho Start-up Operation(DSO)」の展開 ⑤

事業概要

産業・スタートアップ

- ① COLUMBUS：全国約10都市の商工会議所等と連携し、各エリアのスタートアップや地元企業等との交流・ビジネスマッチングを実施する。
- ② U-START UP：大学発スタートアップのピッチコンテストを開催するほか、スタートアップ企業の事業計画書の作成やプレゼン力の向上等を支援する(2021年度より開始)。

2023年度実績

- ① 東京、名古屋、京都、神戸、福岡に加え、新たに札幌、仙台、広島、愛媛等全国9都市と連携したマッチング会を開催。
- ② ピッチコンテストには36社から応募があり、6社を表彰した。



9月、U-START UPの受賞者を決定

評価指標

- ① 参加企業：1,257社、マッチング：92件
- ② 参加企業：205社

気付き・課題

- ① 万博に向け、国内外の都市からスタートアップが集うマッチング機会の創出。

2024年度計画

- ① 2025年に万博会場で予定される、日本のスタートアップを世界に発信する「Global Startup EXPO 2025」プレイベントを秋頃に開催する。また各都市のスタートアップと中小企業のマッチング会も年間を通じて行う。
- ② 大学発スタートアップ支援のため、U-START UPを継続開催する。

2025年度目標

- ① 「Global Startup EXPO 2025」の開催を支援するとともに、大商独自の連携イベントを開催するなど、スタートアップと中小企業のマッチング強化。

町工場ネットワークの拡充 ⑥

事業概要

産業・スタートアップ

企業成長支援

- ① 町工場の技術や設備等の情報を共有し、受注拡大や独自製品開発に取り組む「町工場ネットワーク」を運営し、町工場の「稼ぐ力」向上を支援する(2017年度より)。
- ② 大阪ヘルスケアパビリオンへの町工場の共同出展を支援する。

2023年度実績

- ① 「ものづくり加工ネットワーク強化交流会」を2回開催(3月に1回予定)。面談を通じて協業を支援するとともに、「町工場」が直面する経営課題に対する情報提供を実施。
- ② 「リボンチャレンジ交流会」を4回開催。共同出展に向けたグループ形成を支援。出展候補企業・グループが45者形成され、20者の出展が内定した。

評価指標

- ① 参加企業：193社 マッチング：42件

気付き・課題

- ① 企業連携による製品開発経験がない町工場が多い。町工場同士の役割分担、知財関係の調整等、伴走支援が必要。



町工場ネットワーク交流会

2024年度計画

- ① 町工場同士の関係づくりを支援する「ものづくり加工ネットワーク強化交流会」を開催。
- ② 万博出展に挑む企業・グループの製品・試作品開発とさらなる連携を支援する「リボンチャレンジ交流会」を開催。

2025年度目標

- ① 交流会、万博出展等を通じて「大阪の町工場」の知名度・製品開発力の向上、企業経営力強化につなげる。

1. ものづくり×イノベーションプロジェクト

※評価指標の数値は2023年12月末時点

MoTTo OSAKA オープンイノベーションフォーラムの運営 ⑦

事業概要

産業・スタートアップ

- ① 大企業の技術ニーズや技術シーズを中小企業等につなぎ、オープンイノベーションによる新技術・新製品の開発を支援する(2009年度より)。

2023年度実績

- ① 7月に大阪ガス(株)、LG Japan Lab(株)が、12月にパナソニックグループ、ファーウェイ・ジャパン社が技術ニーズを発表、中小企業等が有するシーズとマッチング。
- ② 11月にKAHMジャパン(株)、理研鼎業(株)、近畿大学が、2月に中部電力(株)、三洋化成工業(株)、サンプロコ(株)が技術シーズを発表、各シーズを活用したい中小企業等とマッチング。
- ③ 7月に技術提案力向上セミナーを開催。
9月に経済安全保障セミナーを実施。

評価指標

- ① 参加企業：225社、
マッチング：17件
- ② 参加企業：のべ40社、
マッチング：2件

気付き・課題

- ① 国内だけでなく、海外大手企業とのマッチングニーズも高い。

2024年度計画

- ① 国内大手企業に加え、海外大手企業の技術ニーズ、海外の大学やスタートアップ等が持つ研究シーズの発表を強化し、中小企業とのマッチングを行う。「中小企業の提案力向上セミナー」のほか、海外企業と取引する際の留意点について情報提供する「経済安全保障セミナー」を開催する。

2025年度目標

- ① MoTTo OSAKAオープンイノベーションフォーラムを継続運営し、マッチング規模拡大を目指す。



技術ニーズ
発表会

繊維・アパレル産業のイノベーション促進 ⑧

事業概要

繊維

- ① 大阪ファッション産業振興フォーラムにて、先進的なビジネスモデルを紹介するセミナーや、新ビジネス開発に向けた交流会を行うとともに、「ファッション・イノベーション展」を開催。
- ② 大阪ヘルスケアパビリオンで、サステナブルをテーマとした出展展示を行う。

2023年度実績

- ① 11月に、展示商談会「ファッション・イノベーション展」を開催。
- ② 9月に出席希望企業によるプレゼン交流会を開催、グループを組成し展示テーマ等を検討。17社が出展予定。

評価指標

- ① 参加企業：450社
- ② プレゼン交流会
参加企業：25社

気付き・課題

- ② 展示内容のブラッシュアップが必要。

2024年度計画

- ① 年に2~3回、各回テーマを設定して「プレゼン&交流会」を開催するとともに、11月に「ファッション・イノベーション展」を行う。
- ② 大阪ヘルスケアパビリオン出展企業の展示内容のブラッシュアップや、展示準備を進める。

2025年度目標

- ② 万博出展を通じ、未来の繊維・アパレル産業の姿を発信する。



大阪ヘルスケアパビリオン
展示イメージ

2. ウェルネスビジネス創出プロジェクト

※評価指標の数値は2023年12月末時点

融合領域の拡大による新ビジネス創出支援 ⑬

「未来の医療」の推進 ⑭

事業概要

ライフサイエンス

スポーツ産業

- ① 創薬、医療機器、ウェルネス、スポーツ各分野の実績を生かし、「優しい病院」「環境配慮の医療」「災害医療」「救命救急医療」など、社会課題に関連する医療現場のニーズをもとに課題と企業とのマッチングや解決策の実証実験を支援する。

2023年度実績

- ① 新たな取り組みとして、10月に「優しい病院」「救命救急医療」「災害医療」をテーマに共創カンファレンスを開催、12月に災害レジリエントな街・社会づくりを目指す「災害食を中心とした新産業創出共創コミュニティ」を立ち上げた。「次世代医療システム産業化フォーラム(MDF)」例会で「優しい病院」に関する医療現場ニーズ12件を提示し、関心企業とマッチングを行った。

評価指標

- ① カンファレンス参加企業：159社、
マッチング：22件、
優しい病院マッチング：37件、
災害食 参加企業：64社・機関



「いのち輝く未来社会」実現に向けた共創カンファレンス

気付き・課題

- ① プロジェクトの具体化の加速。

2024年度計画

- ① 「災害食を中心とした新産業創出共創コミュニティ」において、具体的なプロジェクト化に向け、課題の洗い出しやコンソーシアム組成を行い、実証・実装を目指す。

2025年度目標

- ① 「未来の医療」の取り組みにおいて、領域を融合させながら、「災害食」を中心として大規模災害対応の大阪モデルの構築を目指す。

ウェルネスビジネス創出支援 ⑮

融合領域の拡大による新ビジネス創出支援 ⑬

ウェルネスオフィス・プロジェクト ⑮

事業概要

ライフサイエンス

スポーツ産業

- ① 「ウェルネスオフィス・プロジェクト」において、日常生活の中で継続的に利用される「ココロとカラダ」のヘルスケア(非医療)の実現に向け、スタートアップや中小企業と大企業等とのマッチングを行い、オフィス等の空間で個人の健康状態を計測し健康増進を図る製品やサービスの開発を支援する。また、大阪ヘルスケアパビリオンへの出展を支援する。

2023年度実績

- ① 新たな取り組みとして、「ウェルネスオフィス・プロジェクト」を立ち上げ、7月に「未来のウェルネス実装ネットワーク」を開催。万博出展企業を募集し、12月に「未来のウェルネスピッチ」を開催、出展候補32者を決定した。

評価指標

- ① 参加企業：145社、マッチング：580件、
万博応募案件：66件

気付き・課題

- ① ウェルネスビジネスの実証・実装支援の強化が必要。出展企業の継続的なメンタリング・フォローアップが必要。

2024年度計画

- ① 中小企業・スタートアップのメンタリングや、スタートアップや中小企業と大企業とのマッチングなど、事業化の支援を強化する。また、万博出展候補者を対象にブートアップセミナーやメンタリングを実施する。出展プロダクトのβ版を公開し、ユーザーからフィードバックを得る。

2025年度目標

- ① 「ウェルネスオフィス・プロジェクト」の中で、
 - ・取り組みテーマの拡充、事業化に向けた企業チームの組成
 - ・万博会場外の大阪市内におけるショーケースの検討
 - ・万博 大阪ヘルスケアパビリオン出展



「未来のウェルネスピッチ」で万博出展候補者を決定

2. ウェルネスビジネス創出プロジェクト

※評価指標の数値は2023年12月末時点

創薬支援 プラットフォームの運営 ⑨

事業概要

ライフサイエンス

- ① 国内外の大学、研究機関、バイオベンチャー等の研究成果の製薬企業への移転を促進するため、「創薬シーズ・基盤技術アライアンスネットワーク(DSANJ)」(2000年度に設置)を運営し、創薬シーズと製薬企業の個別マッチングを行う。

2023年度実績

- ① 前年度に引き続き、創薬シーズと製薬企業のマッチング会「DSANJ Digital Bio Conference」を8月と1月に開催。

評価指標

- ① 参加企業：42社、商談件数：666件

気付き・課題

- ① 創薬シーズの継続的な発掘・収集が必要。

2024年度計画

- ① 引き続き、国内外の創薬シーズを広く収集し選別のうえ、面談マッチングを夏期と冬期に実施する。

2025年度目標

- ① 「創薬シーズ・基盤技術アライアンスネットワーク(DSANJ)」のシーズ発表者・参加企業のネットワークの拡充。

医療機器ビジネス支援 プラットフォームの運営 ⑩

事業概要

ライフサイエンス

- ① 医療現場のニーズをもとに、企業と医療機関のマッチング、医療機器開発支援を行う「次世代医療システム産業化フォーラム(MDF)」を運営する(2003年度に設置)。

2023年度実績

- ① 前年度に引き続き、医療現場のニーズを発表し、企業とのマッチングを行う「医工連携マッチング例会」を8回開催。「デジタル医療」「再生医療」「看護・在宅医療」「介護・福祉」の分科会における情報提供や産学連携、逆見本市等による企業間連携、医療従事者による製品・サービス評価事業等の支援を実施。

評価指標

- ① 参加企業：122社、マッチング：141件、個別事業化相談数：424件、事業化件数：4件

気付き・課題

- ① 医療現場のニーズは医療手技に限らず幅広く、多様な会員企業の活躍の余地が残っている。

2024年度計画

- ① 医療現場の課題やニーズをより広く収集する。万博や「優しい病院」などをテーマとして設定し、より多くの企業参画を促す。

2025年度目標

- ① 「次世代医療システム産業化フォーラム(MDF)」における事業化支援の拡充。

医療機器ビジネスの 途上国市場開拓支援 ⑰

事業概要

ライフサイエンス

- ① 国内企業の途上国市場展開を支援するため、JICA関西センターと連携し、途上国(ブラジル、バングラデシュ、モンゴル等)の現地医療機関の医療機器や設備、情報システム等に関する課題と日本企業とのマッチングを行う。

2023年度実績

- ① 新たな取り組みとして、モンゴルの現地医療関連企業、病院から課題汲み取りを行った。また、モンゴルからの課題提案を受け、企業とのマッチング検討開始。

評価指標

- ① マッチング：7社18件
(現状では全件進捗の見込みあり)

気付き・課題

- ① 対象とする途上国市場の慎重な見極めと、日本企業への現地事情の情報提供が必要。
① マッチング後、当該国向けの製品開発を支援する体制が必要。

2024年度計画

- ① JICAから途上国の現地ニーズの提供を受け、ニーズ説明セミナーを開催。課題解決策を提示できる日本企業を募り、現地医療機関や現地企業とのマッチングを行う。当該国向けの製品開発を支援する。

2025年度目標

- ① 現地ニーズと日本企業とのマッチングの、他の途上国への拡大。

2. ウェルネスビジネス創出プロジェクト

※評価指標の数値は2023年12月末時点

スポーツ産業の振興 ⑫

ライフサイエンス

スポーツ産業

事業概要

- ① 京阪神3会議所によるスポーツ産業振興プラットフォーム「スポーツハブKANSAI」(2017年に設置)を運営し、スポーツに関する課題やシーズと関心企業のマッチング会、共同研究や事業開発を伴走支援する。
- ② 一般市民が参加する体験型イノベーションショーケース「Ex-Cross」で実証やマーケットサウンドを支援する。

2023年度実績

- ① 6月に「スポーツハブKANSAI」ビジネスマッチング例会を1回開催。
- ② 11月にてんしば(天王寺公園)でEx-Crossを開催し、40,289人が来場。

評価指標

- ① 参加企業：62社、マッチング：22件、事業化支援件数：14件、事業化件数：8件
- ② 参加企業：26社、実証件数：4件



体験型イノベーションショーケース「Ex-Cross」

気付き・課題

- ① スポーツ・ヘルスケア分野のビジネスニーズが高い。
- ② 一般市民が参加する実証・マーケットサウンドの機会が非常に貴重。

2024年度計画

- ① シーズを継続的に収集し、マッチング例会を実施するほか、連携案件の伴走支援、共同研究、事業化を支援する。
- ② サービス実証や関連企業のマーケットサウンドの機会を提供する。

2025年度目標

- ①②まちづくりプロジェクトや万博と連携した、実証プロジェクトの開始。

多国間メドテックアクセラレーション事業 ⑬

ライフサイエンス

事業概要

- ① 豪州のアクセラレータと連携し、日本、豪州、シンガポール、インドの支援ネットワークを通じて、スタートアップや中堅・中小企業の海外展開や販路拡大等を支援する。

2023年度実績

- ① 新たな取り組みとして、4~12月にかけて、国内外の医療系スタートアップを発掘・育成する「ORIGIN」事業と、国内のスタートアップや大阪・関西の中堅・中小企業の海外展開を支援する「GLOBAL NAVIGATOR」事業を実施。海外企業・投資家に対するピッチやネットワーキング、販路開拓等の機会を提供した。

評価指標

- ① 参加企業：22社、支援件数：7件、事業化・投資件数：2件

気付き・課題

- ① 万博と連携した国内外医療系スタートアップのピッチコンテストの大阪開催。そのための豪州アクセラレータとの連携強化。

2024年度計画

- ① 継続して、豪州アクセラレータと連携し、「ORIGIN」「GLOBAL NAVIGATOR」を実施する。日本、豪州、シンガポール、インドの4カ国の支援機関との支援ネットワークを強化する。2025年度に支援プログラムの最終ピッチコンテストを大阪で開催するため、予算確保や関係機関との調整を行う。

2025年度目標

- ① 豪州のアクセラレータと連携した支援プログラムの最終ピッチコンテストを大阪で開催し、世界へのPR機会とする。

3. 都市魅力再構築プロジェクト

※評価指標の数値は2023年12月末時点

都市魅力の再構築

18

事業概要

都市活性化

- ① 万博開催時の魅力発信事業の推進体制を構築する。
- ② 水と光による都市魅力の再構築に取り組む(2001年度より)。
- ③ 新たにwebクイズ「なにわなんでも大阪チャレンジ」実施。

2023年度実績

- ① 6月に、まち全体で万博の盛り上がりをめざすシンポジウムを日経新聞と共催。準備会を設置し、具体検討を開始。11月に実験事業「まちごと万博カーニバル」を開催。
- ② 万博開催時の水上航路に関する説明会(7月)、夢洲と「水の回廊」を結ぶ特別クルーズ(11月、12月)を実施。
- ③ webクイズ「なにわなんでも大阪チャレンジ」を3回実施。

評価指標

- ① 活動実績：1,650人
- ② 活動実績：説明会273人、クルーズ157人
- ③ 参加者：のべ3,206人(2回分)



気付き・課題

- ① 万博と連動したまちなかの盛り上がりを推進する体制が必要。

2024年度計画

- ① 公民連携による「大阪まちごと万博共創プラットフォーム」を新たに構築し、一体的な情報発信やエリアマネジメント団体とコンテンツを有する団体のマッチングを開始。
- ② 「水都大阪コンソーシアム」や「大阪・光の響宴実行委員会」の活動を継続支援。
- ③ 23年度に実施したアンケート調査結果をふまえ、内容を改善してwebクイズを実施。

2025年度目標

- ① 万博開催時の魅力発信を実践し、万博後の継続も検討。

グレーターミナミの活性化

19

事業概要

グレーターミナミ

- ① 大阪府南部の商工会議所、企業等で産業振興・観光交流に関する具体的な取り組みを推進。
- ② 大阪都心南部で、外国人とクリエイターを核にグローバル化とイノベーションを促進する「グローバル育成協議会」の活動を支援(2022年度より)。

2023年度実績

- ① 9月にグレーターミナミ活性化シンポジウムを開催し、地域活性化プロジェクトの進捗・成果を紹介、163人が参加した。11月にグレーターミナミ推進委員会を新設した。
- ② グローバル育成協議会において、外国人誘致・居住促進に向けた活動を支援した。

評価指標

- ① プロジェクト支援：4件
- ② プロジェクト支援：2件

気付き・課題

- ① シンポジウムの反響が大きく、活性化に向けた地元自治体等の機運が高まっている。

2024年度計画

- ① エリアの活性化に向けて協働する主体を募り、具体的なプロジェクトの組成・推進を支援するとともに、その成果をシンポジウムで発信し、新たなプロジェクトを呼び込む。また、シンポジウム開催にあたっては、万博に関連するテーマを設定する。
- ② 引き続き、「グローバル育成協議会」の活動を支援する。

2025年度目標

- 万博開催時の大阪都心部と連携した取り組み支援。



3. 都市魅力再構築プロジェクト

※評価指標の数値は2023年12月末時点

食のまち・大阪のブランド向上

⑳

事業概要

食料

ツーリズム

- ① 次代を担うシェフを、生産者との交流等を通じて育成する。
- ② 国内外のシェフが連携する食イベントの開催等を通じて、大阪の食の魅力を海外に発信する。

2023年度実績

- ① 通常廃棄される食材を活用することでフードロス問題を考えるイベント“HAJIKKO RESTAURANT”を大阪府環境農林水産総合研究所等と連携して新たに開催（7月）。
- ② 大阪とバルセロナのシェフが共創や挑戦を図るコラボイベント“World Food Market series SPAIN”を11月に開催。1月に、大阪が誇る上質な食と伝統芸能（文楽）を組み合わせたインバウンド向けツアーを試験的に実施。

評価指標

- ① 参加店舗：4店、参加者：76人
- ② 参加店舗：12店、参加者：3,531人



文楽と食を組み合わせたインバウンドツアー実施

気付き・課題

- ① 万博の機会を活かした国内外への発信の強化。
- ② 多くの飲食店が参加でき、かつ、来街者の分散により万博の開催効果をより広域に波及させるプログラムが必要。

2024年度計画

- ① 新たな取り組みとして、大阪観光局等と連携し、飲食事業者等が万博特別メニューを考案し、SNS等で発信する「万博特別メニューでおもてなしプロジェクト(仮称)」を実施。また、大阪の飲食街をエリアごとにプロモーションする「大阪まちごとバルプロジェクト(仮称)」を実施。

2025年度目標

- ① 大阪の食の魅力発信による、より深い食体験の提供。

富裕層の戦略的誘致と滞在交流型観光の推進

㉑

事業概要

ツーリズム

- ① 観光コンテンツ造成支援や、インバウンドの行動調査等を通じて、国内外観光客の滞在長期化や観光消費額の増大を目指す。

2023年度実績

- ① 10月に開催された「ツーリズムEXPOジャパン2023大阪・関西」に設けた特別ブースに企業9社が出展、販路拡大を支援。10月に東京商工会議所と、万博の機運醸成や広域周遊促進に連携して取り組む包括連携協定を締結。「#大阪ええやん知らんけどInstagram投稿キャンペーン」を実施し、7,304件の投稿を得て新たな観光魅力を発信。

評価指標

- ① 観光コンテンツ事業化：3件、
広報実績：57件、
マッチング件数：208件

気付き・課題

- ① 観光の高付加価値化に対応する観光コンテンツの創出支援が必要。万博開催効果の最大化や能登半島地震からの復旧・復興支援に向けた取り組み。

2024年度計画

- ① 高付加価値観光に取り組む先進事例や、文化施設・文化財等のユニークベニューとしての活用例等を紹介するとともに、関心事業者のマッチングを行うネットワーク交流会を開催。大商公式Instagramを継続運用し、若年層等に、万博や大阪の幅広い魅力等の情報を発信する。また、広域周遊観光、特に、復旧・復興に向け北陸への観光促進に資する情報発信等を行う。

2025年度目標

- ① 万博開催期間中の観光客の滞在長期化、観光消費額の増大。



東京商工会議所と包括連携協定を締結

3. 都市魅力再構築プロジェクト

※評価指標の数値は2023年12月末時点

商店街観光の振興

22

事業概要

流通活性化

- ① 国内外の観光客による商店街利用促進のため、グーグルマップへの登録支援や商店街周辺の観光資源と連携した観光振興を支援。
- ② 「100円商店街」の開催を支援(2010年度より)。

2023年度実績

- ① 22年度トライアル事業を踏まえて、グーグルマップへの登録支援を本格実施し、6者の商店街が登録。8月から玉造日之出通南商店街と周辺神社が連携し、御朱印を提示すると商店街で特典が得られる取り組みを新たに実施。10月にはICT活用を促進する「商店街シンポジウム」を開催した。
- ② 「100円商店街」実施を12回支援。



玉造日出通商店街と
周辺神社との連携事業

評価指標

- ① 支援事業実施件数：7件
- ② 支援事業実施件数：12件

気付き・課題

- ① インバウンド客対応のため、商店街店舗接客におけるスマホ翻訳などの活用をすすめる。また再開発ビル専門店街などアーケード型以外の「商店街」へも集客をはかる。

2024年度計画

- ① 万博に向け、飲食店メニューの翻訳や会話の自動通訳等、商店街店舗におけるスマホ活用セミナーを開催する。また再開発ビル専門店街を対象とした「レトロビル商店街」の情報発信を支援する。
- ② 「100円商店街」を継続して実施。

2025年度目標

- ① 万博開催期にあわせた商店街の魅力発信。

4. まちなかりビングラボプロジェクト

※評価指標の数値は2023年12月末時点

リビングラボの推進

23

事業概要

都市活性化

産業・スタートアップ

デジタル変革

- ① 大阪城東部地区において大阪公立大学や関心企業等と連携し、企業や就業者、住民が参画してニーズや課題の把握・解決を目指す「イノベーション・フィールド・シティ」を具体化する。
- ② 大阪工業大学と連携し、2018年度に開設した都心型オープンイノベーション拠点「Xport」を運営し、大企業、中堅・中小企業、スタートアップ、社会人、学生等様々な主体のマッチング・共創を通じて課題解決や新規事業の創出を支援する。

2023年度実績

- ① 新たに大阪公立大学や民間企業等とともに「大阪城東部地区イノベーション・フィールド・シティ具体化検討会 スマートモビリティ分科会」を設置し、検討を開始。
- ② 前年度に引き続き、年間通じた「会員情報交換会」等のネットワーク・マッチング事業や、企業の課題に学生チームが解決提案する産学連携PBLプログラム「RDクラブ」等を実施。また、スタートアップの遠隔受付システムの実証実験を行った。

評価指標

- ① 参加企業：8社
- ② 参加企業：829社、マッチング：11件

気付き・課題

- ① 当該地区の遊休地暫定利用に関し、企業連携のニーズあり。
- ② 学生とのマッチングをXportの強みとして改めて打ち出す。

2024年度計画

- ① 参画企業を募集し、マッチングを支援する。こうした取り組みを同地区におけるリビングラボ推進の実験事業としてPRする。
- ② 学生と企業等とのマッチングに注力して支援する。

2025年度目標

- ① 他事業とも連携し、大阪城東部地区でリビングラボを展開する。
- ② Xportの事業を継続開催し、企業のニーズと学生アイデアのマッチングを推進する。

実証事業の推進

24

事業概要

デジタル変革

- ① 実証実験を希望する企業に対し、大阪府・大阪市や民間企業の施設等のフィールド調整を行い、大阪府下での円滑な実証実験の実施を支援・促進する(2017年度より実施)。

2023年度実績

- ① 前年度に続き、大阪府・大阪市・民間企業等と連携した枠組みで以下の実証実験を支援した。
 - 5月「デジタルツイン技術を活用したARコンテンツ表示実験」
 - 9～11月「会議・イベント開催時のCO2排出量見える化実証実験」
 - 9～3月「縦型オールインワン型IoT 降雨計での集中豪雨の遠隔監視」
 - 12月「都市型自動運転船「海床(うみどこ)ロボット」による都市の水辺のイノベーションに関する実証実験」
 - 1月「中之島ロボットチャレンジ2023」

評価指標

- ① 実証実験支援：5件

気付き・課題

- ① 実証実験フィールドとして、公有地に加えて、民間企業保有施設の利用促進が必要。



海床(うみどこ)ロボット実証実験

2024年度計画

- ① 大阪府・大阪市・民間企業と連携し、引き続き実証実験の実施を支援する。また、実証実験に協力可能な民間企業保有施設の発掘や利用促進を行う。

2025年度目標

- ① 実証実験支援の枠組みを活かした万博開催時の実証実験イベント開催